

第1回大会（日本基礎老化研究会）	世話人	特別講演	
昭和52（1977）年8月5，6日（東京都）	山田正篤（東京大学・薬）、室田誠逸（都老人研・薬理）	老化の形態学（愛知医大・加齢研 田内久）	
第2回大会（日本基礎老化研究会）	世話人	特別講演	
昭和53(1978)年7月14，15日（京都市）	菅原努（京大・医）、山科郁夫（京大・薬）	加齢と内分泌機能（京大・医 井村裕夫）	
第3回大会（日本基礎老化研究会）	世話人	特別講演	
昭和54（1979）年7月20，21日（東京都）	太田邦夫（都老人研）	哺乳動物のMicrosurgeryによる新しい実験動物の作出（東京大・医 大沢仲昭） 加齢と免疫（放医研 佐渡敏彦）	
第4回大会（日本基礎老化研究会）	世話人	トピックス	
昭和55（1980）年7月24，25日（仙台市）	松沢大樹（東北大・抗酸菌病研）	中枢神経の老化 細胞の老化	
第5回大会（日本基礎老化学会設立）	世話人	特別講演	
昭和56（1981）年5月15，16日（愛知県愛知郡） 総会にて日本基礎老化学会設立が承認される。	田内久（愛知医大・加齢研）	老化と過酸化脂質（名古屋大・医 八木國夫）	
第6回大会	大会会長	特別講演	
昭和57（1982）年7月23，24日（東京都）	江上信雄（東京大・理）	加齢を免疫（順天堂大・医 白井俊一）	
第7回大会（第13回日本老年学会総会）	大会会長	特別講演	
昭和58（1983）年10月27～29日（仙台市）	樋渡宏一（東北大・理）	基礎老化研究への提言（東海大・医・鈴木擘之）	
第8回大会	大会会長	特別講演	シンポジウム
昭和59（1984）年6月28，29日（京都市）	藤田哲也（京都府立医大）	個体の発生と老化—魚の研究を中心として—（東大・理・動物・江上信雄）	臓器の老化と細胞の老化
第9回大会（第14回日本老年学会総会）	大会会長	特別講演	
昭和60（1985）年9月27日～29日（東京都）	今堀和友（都老人総合研究所）	老化制御（太田邦夫）	
第10回大会	大会会長	特別講演	シンポジウム
昭和61（1986）年7月4，5日（山梨県甲府市）	入来正躬（山梨医大）	老化研究序説（三菱化成生命研究所 所長 今堀和友）	ホメオスタシスと老化
第11回大会（第15回日本老年学会総会）	大会会長	特別講演	シンポジウム
昭和62（1987）年10月1～3日（大阪市）	藤原美定（神戸大・医）	複製からみた基礎老化機構（山田正篤）	遺伝環境と寿命・老化
第12回大会	大会会長		シンポジウム
昭和63（1988）年9月21日、22日（神奈川県伊勢原市）	鈴木擘之（東海大・医）		老化の原点を探るための戦略
第13回大会（第16回日本老年学会総会）	大会会長		シンポジウム
平成元（1989）年11月14～16日（名古屋市）	佐藤秩子（愛知医大・加齢医科学研究所）		老化の研究における実験動物
第14回大会	大会会長		シンポジウム
平成2（1990）年10月15～17日（東京都）	積田亨（東京都老人総合研究所・所長）		タンパク質の老化
第15回大会（第17回日本老年学会総会）	大会会長	特別講演	
平成3（1991）年11月4～5日（横浜市）	蟹沢成好（横浜市大・医）	自然免疫系の破綻と加齢(順天堂大・医 奥村康)	
第16回大会	大会会長	特別講演	シンポジウム

平成4 (1992) 年9月28～30日 (東京都)	能村哲郎 (埼玉大・理)	放射線と老化 (体質研究会 菅原努) ゾウリムシと老化 (石巻専修大 樋渡宏一)	老化考—1992
第17回大会 (第18回日本老年学会総会)	大会会長	特別講演	シンポジウム
平成5 (1993) 年9月22～24日 (札幌市)	佐藤昭夫 (東京都老人総合研究所)	基礎老化学の立場に立ってのアルツハイマー病研究 (三菱化学生命科学研究所所長 今堀和友)	器官機能の加齢変化—脳・神経系を中心に
第18回大会	大会会長	特別講演	シンポジウム
平成6 (1994) 年10月11～14日 (東京都)	松尾光芳 (東京都老人研)	Glycobiology for the progress of aging researches. (A Kobata)	1.分子生物学 2.細胞生物学 3.栄養制限
		Universal and unchanging? (P.T. Costa Jr.)	4.神経内分泌学 5.イメージング 6.縦断研究
第19回大会 (第19回日本老年学会総会)	大会会長	特別講演	シンポジウム
平成7 (1995) 年10月18～20日 (大阪府)	藤原美定 (神戸大・医)	Is life span in <i>C. elegans</i> determined by a biological clock or by a cascade? (P.L. Larsen, 南カリフォルニア大・アンドラス老化研)	老化・寿命・細胞死—最近の進歩 β アミロイドの蓄積と神経毒性の機構
第20回大会 (第20回日本老年学会総会)	大会会長	特別講演	シンポジウム
平成9 (1997) 年6月18～20日 (東京都)	永井克孝 (三菱化学生命科学研究所)	個体老化の分子機構の解明をめざして (国立精神神経センター鍋島陽一)	老化と情報伝達
第21回大会	大会会長		シンポジウム
平成10 (1998) 年6月17～19日 (東京都)	後藤佐多良 (東邦大・薬)		老化を蛋白質から見る
第22回大会 (第21回日本老年学会総会)	大会会長	特別講演	シンポジウム
平成11 (1999) 年6月16～18日 (京都市)	竹田俊男 (京都大・名誉教授)、副会長: 細川昌則 (京都市大・再生研)	Uncovering the secrets of aging using genetics in the nematode <i>C. elegans</i> . (Dr Thomas E Johnson, Inst for Behavioral Genetics, Univ Colorado, U S A)	老化モデルの最前線—老化の多様性と普遍性を探る—